

## 『森の探偵団』による出前講座

『森の探偵団』とは、自然環境への「気付き」と「かかわり」を大事にした活動を積み重ねている地域団体

「自然に親しむ心」の育成には、身近な自然環境に気付き、かかわりを深めていくことが必要である。そのきっかけとして、幼児と教職員が自然環境を学ぶことが有効であろう。そこで『森の探偵団』に出前講座を依頼した。

第1回目は、まず自然環境に関心をもつことに重点を置いた。現代の環境の変化を反映して、幼児のみならず教職員も身近な自然についてあまり知らず、それに直接触れることに抵抗を感じるものも少なくないからである。

## 第1回目 出前講座 「金ヶ崎公園を大好きになろう」

- ・金ヶ崎自然公園に生息している生き物を教えてもらう。
- ・ダンゴムシとゾウリムシの違いを聞く。遊びや ×ゲームを通して実際に触りながら気付いていく。
- ・危険な生き物（スズメバチやマムシなど）のことを知る。
- ・ダンゴムシが登場する楽曲の譜面をもらい、運動会でダンゴムシ体操を披露する。
- ・クスノキ（公園内にある）の葉っぱの匂いを嗅いでみる。
- ・ホタルの話聞く。



これを受けて第2回目の出前講座では、園舎内外の身近な自然の中でも観察できるダンゴムシに絞って講話をして頂いた。日々の保育の中でも、子どもがダンゴムシに気持ちを寄せて遊んでいたからである。

普段ダンゴムシとのかかわりを深めているだけに、子どもたちは真剣に聞き入っていた。また、子どもが関心を深めると、保護者の意識も変わってくる。昨年度、同様の取り組みを行ったところ、数名の保護者から「私は虫が苦手、ダンゴムシやゾウリムシのレースでは子どもと一緒に遊べなかったのですが、我が子がダンゴムシを見つけるたびに顔を輝かせるので、少しずつ触るおけいこをしています」と報告を受けた。



## 第2回目 出前講座 「ダンゴムシをこれからも探しに行こう」

ダンゴムシの生態をビデオで見せてもらいながら話を聞く。

- ・ダンゴムシが土を作ることで、丈夫な木が育つ
- ・ミミズも土を作っていく仲間
- ・いろいろな生き物がみんなつながりながら生きている

『森の探偵団』による出前講座で、ダンゴムシに夢中になっている5歳児の後姿を見て、4歳児がダンゴムシをひたすら探し集め回る「探検隊」をクラスの枠をこえて自然と作り上げていった。

「ここにおったで」「ダンゴムシ見つけた、早く来て。逃げるで」「めちゃうちゃ、いっぱいおるわ」と声を掛け合い、飼育ケースが真っ黒に見えるほどかき集める。よく見るとその中に、脱皮した殻・脱皮中のダンゴムシ・腹部が黄色がかり今にも赤ちゃんを産みそうなダンゴムシが混じっていた。その違いに気付けるよう保育者が言葉をかけると、今度は集めては腹部を見て、「これ、黄色」「これ、違う」と区別しながら別々のケースに入れ分けていた。「気付き」をすぐに遊びに取り入れる姿を微笑ましく感じる。友達が丸くなっているダンゴムシのお腹を見ようとして無理やりに体を開こうとすると、「ギュッとしたら、おかあさんダンゴムシがかわいそうやろ」と優しい口調で注意する女児もいた。「もしかして、お腹ぺこぺこやからじっとしているのかもわからへんで」とキャベツを手で細かくちぎって与えたり、「のど渇いとうで、暑いから」と小さな入れ物に水を入れたりしていた。

子どもたちが「赤ちゃんダンゴムシ」の誕生を心待ちにしているのが、よく伝わってきた。

## みどころ

自然を大事にする地域団体の講座を体験したことで、いつも無意識にかかわっている身近な自然の中にも、たくさんの気付きがあることを教わりました。子どもたちのダンゴムシとのかかわりから、「もっと知りたい」「もっとよく見てみよう」という好奇心や生き物へのいたわりの気持ちの変容が見られます。保育者さえも見逃してしまいがちな身近な自然環境に新たに目を向けることで、子どもの「科学する心」が沸き起こることがよく分かります。